

日本近現代文芸研究

代表者： 大西洋平
(文学研究科日本文学専修 D4)

★今年度は新型コロナウイルス蔓延・感染予防に伴い、衣笠キャンパスが閉鎖されていたこともあり、当初予定していた特集企画の進行あるいは活動内容を大幅に変更・中止することとなった。他方で、そのような状況下でも Zoom を活用したオンライン研究会・オンラインミーティングなどを通して、会の活動を行った。

★オンライン研究会では、特集企画の進捗確認のほか、会員それぞれが専門的に行っている研究状況の共有や相談も行った。当会は自由論文投稿や研究ノートを募集していることから分かる通り、近現代文学全般を対象としている。そのため、会員各

位が専門的に研究しているものについても、相談や情報共有ができる場を作っている。特に今年度は、キャンパス・図書館の閉鎖や、講義のオンライン開催などによって、従来通りの研究活動が阻まれた学生も多く存在した。当会が今年度行ったオンラインミーティング等ではそうした学生のバックアップにも尽力した。

ISSN 2435-2144

日本近現代文芸研究
第三号

論文

坂口安吾「釋僧」論……………陳 曉芝 (3)

中島敦『古譚』もの研究……………BOVA Elio (17)
——「狐憑」・「木乃伊」の構想期再考から南洋行との連続性の指摘へ——

研究ノート

『城大文学』における日本語小説……………橋井 清文 (37)
——京城帝国大学と「相互理解」の地平——

英文要旨…………… (51)

2020.12
日本近現代文芸研究会

★次号(四号)には特集「雑誌「新青年」研究(仮)」を掲載予定である。また第三号では中止していた研究ノート等も次号以降は通例通り掲載する予定である。

▲機関誌第三号書影(目次)